

57号墳は、現ふれあい街道建設工事にともなって発掘調査が行われたもので、現在は北半分が道路脇に保存されています。

古墳は直径約16mの円墳で、埋葬施設は全長約8.6mの横穴式石室です。玄室奥の床には30cmほどの石が玄室を仕切るように並べられていました。



57号墳の横穴式石室

副葬品はほとんどが石の列で仕切られた玄室の一番奥から出土しています。



副葬品の出土状況

須恵器の杯身や蓋がかたまって置かれ、そのとなりには鉄鏃が数本、束になった状態で出土しました。他に鉄刀と鏝の破片が出土しています。

出土した須恵器から、この古墳は6世紀末～7

世紀初頭頃に築造されたものと考えられます。

池田町教育委員会「願成寺西墳之越古墳群資料調査報告書」1999年



出土した土器と鉄鏃